

阿蘇の特長である草原環境。

なかでも昔から採草地として管理されてきた場所は、さまざまな植物が育ち花を咲かせる、特に多様性の高い草原となっていました。これを維持していくためには、採草作業を継続・復活させることが重要です。農家の採草作業を手助けしたり、草の需要を新しく開拓するための、実証試験が始まっています。

THEME 03

「草原維持活動支援モデルツアー」を行っています

組織的なボランティアだけでなく、都市住民が単発的にでも牧野組合の草原維持活動を手伝うことのできる仕組みづくりを目指し、作業支援と交流をテーマにしたツアーを試験的に実施しています。今年度は、野草採草(刈り干し切り)の手伝いを中心にしたプログラムをつくり、「千年の草原を守ろう」とインターネットで参加者を募集しました。

会場は町古閑(一の宮町)、池の窪(白水村)、木落(一の宮町)の3牧野。皮切りとなった町古閑牧野では、10月9日(土)・10日(日)の2日間、6人の一般参加者が集まり、前日からの雨のため予定していた採草作業はで

きませんでしたが、代わりに牧柵修理を手伝いました。参加者は広大な牧野や間近に見るあか牛の姿に感動するとともに、牧野組合長から草原保全の大切さを聞いて、また次もぜひ参加したいと話していました。



雨のなか牧柵修理(鉄条網張り替え)作業を実施(H16.10.9)

THEME 04

野草利用の拡大に向け「阿蘇草原再生協力店・商品づくり」進行中



10月から3ヵ月間、阿蘇郡内の農産物直売所で「阿蘇草原再生」のシールを貼った野菜が売られています。シールは、阿蘇の野草から作った堆肥を使って育てられたことを示しており、多くの方にこの野菜を買っていただくことで、野草の利用を広げ、草原再生につなげていこうという試みです。

野草を利用した野菜づくりに取り組む農家とそれを販売する直売所の協力により、シール貼りや試験的な販売、消費者アンケートなどを続け、シールの効果を検証・評価する予定です。多くの人々が阿蘇草原再生に参加できる仕組みとしても注目されています。



草原再生シールの貼られた農産品

インタビュー 草原再生への期待



吉田愛梨氏

白水村在住 農業 NPO法人九州バイオマスフォーラム理事長

2年前から阿蘇で農業を始めました。海外ではエネルギー作物として栽培されているススキが、草原に自然に生えているということが驚きでした。しかも、利用されずに放棄される草原が増えている。世界規模で自然エネルギーの利用が進む中、阿蘇でも未利用のススキを利用してエネルギーを生み出すことが可能だと思いました。しかしエネルギー資源としての利用を進めるに

はまだまだ技術や仕組みの課題が多いため、まずは飼料や堆肥の原料としての価値を見直しています。何度も消毒してから輸入される外国産の野草より、自然に生えている阿蘇の野草のほうが良いに決まっています。ススキの利用価値を生み出し、草原の再利用につなげたい…。NPOらしい柔軟な発想や体制で、草原の保全に取り組んでいきたいと思っています。